

# 福島原発について あなたの疑問に答える

日時：2011年12月8日（木）

午後6時30分より

場所：ルミエールホール

講演：安齋 育郎 名誉教授

安齋 育郎（あんざい いくろう）



《プロフィール》

- ・立命館大学名誉教授
- ・同大学国際平和ミュージアム名誉館長
- ・1940年東京生まれ
- ・東京大学工学部原子力工学科卒、放射線防護学、工学博士、東京大学医学部助手、立命館大学関係学部教授、2011年立命館大学を退職  
安齋科学平和事務所を開設

《著書》

「人はなぜ騙されるのか」（朝日新聞社）「だます心 だまされる心」（岩波書店）「科学と非科学の間」（かもがわ出版）「福島原発事故・どうする日本の原発政策」（かもがわ出版）など著書多数

かどま

九条の会5周年のつどい

## 日本列島 各地に被害

東京電力福島第1原発の事故は今なお深刻な事態が続いています。その放射能被害は日本列島の各地に広がりつつあり、どこまでも広がる危険性があります。

福島原発1～6号基の放射エネルギーは、広島型原爆の5,000倍近い放射能（放射線や放射物質）があるといわれています。

## 戦争目的で開発した動力炉

人類は1930年代に核エネルギーを発見しました。そして、アメリカが原爆の開発を行い、1945年に広島と長崎に落としました。その後、アメリカ海軍が潜水艦の動力に原子力エネルギーを使うために急ピッチで原子炉（動力炉）を開発しました。それを転用したのが今の原子力発電で、もともと戦争のための開発ですから、安全性を十分に考えないままあわててつくった原子炉の弱点が、今、露わになっているのです。

## 将来の危機、地域社会の危機

今の開発されている原子炉は莫大な「使用済み核燃料」を生み出します。しかし、人類はそれを安全に処理する今の科学や技術はもちあわせていません。

今回のような原発事故が起きるとその被害は、はるか将来にもわたって続き、とりわけ子どもたちの健康被害への影響が強く懸念されています。また、福島県では六つの自治体がまるごと避難させられました。緑豊かな美しい村に、目に見えない放射能によっていつ戻れるかわかりません。

長崎の被爆者が「またヒバクシャを生んでしまった。この日本で」と悔やんでいます。二度と「ヒバクシャ」を生まないために、あなたも原発を考えませんか。

あなたの  
Faxを  
お待ちし  
ています

06-6903-5380

福島原発、原子力、原子力政策など色々な疑問やご意見をお寄せください。講演会でお答えします。